



メス猿
歓迎



野猿接近警戒システム 猿人善快

検知通報用発信器の電波を利用
特許第4070474号



生活圏の境界線

オペレーションによる解決

●地域連携

まず地域で出来る、彼らの餌場にしない取り組みから研修会など全員参加で開催し、「しなくてはいけないこと」「してはいけないこと」を住民間で共有する
そして、本システムにより、彼らの行動を事前に察知することで、常に先行して、この地が人の生活圏であることをアピールすることで、地域を彼らの餌場にしない取り組みが効率的に可能となります

テクノロジーによる解決(専用制御エンジンを用意)

●ノイズ、あるいは他の電波による誤動作を無くす

従来の方式であれば、常について回る問題でしたが、今回認可された方式では、発信器に個別のID(識別符号)を持ちますので、この識別を行うことで誤動作をほぼ100%無くすることが可能となります(その他、判定機能を強化しました)

●受信記録の保存

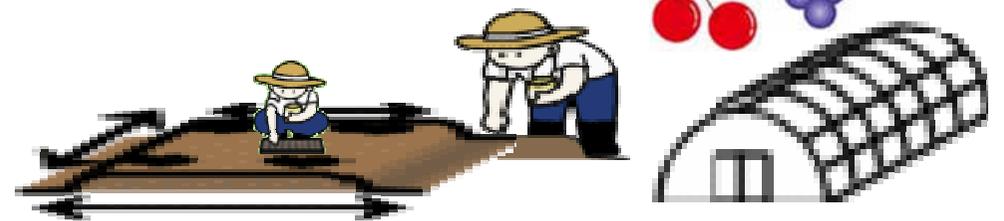
このデータを記録保存、活用することで、彼らの行動パターンを知ることが出来る(行動域調査)と同時に、追い払い等対策の効果を数字で表すことが可能となります
USBメモリで取り出し、Excelで管理することができます

●IT環境を利用すれば

ネットワーク接続環境が必要ですが、Mail通知、あるいは受信データをftp転送することで、既設のシステム(例:IP告知システム)との連携など、今風な仕組みを取り入れた運用が可能になります



新規格(適法)発信器IDに対応、雷や2サイクルエンジンノイズ(単車/草刈機)などの影響による誤作動のない仕組みを構築(OS-K II エンジン搭載)
同時に受信記録も残せるようになりました(Excel型式)
インターネット環境に接続すれば、Mail通知も可能です



「猿人善快」の目指すところ

●人とサルとの生活圏の線引き

常に、被害を意識して緊張しておく必要はありませんし、被害を被ってから対応でもありません
予知して追い払いができる場所、すなわち地域に近づけない=地域を彼らの餌場にさせないところに最大の効果が得られるポイントがあります
賢いサルに、この場所は、人の生活圏だと言うことを教え込みます

また、ある範囲に彼らを囲い込むことで彼らの安全を保証し、自然保護にも貢献できます
生息個体数は、そこで得られるエネルギーの範囲で、極端な増減は生じないはず

●行政と住民との役割の線引き

従来の、被害を被ったから行政に何とかしてくれではありません
自主防除に努めるから、行政に、捕獲や設置費用の面で支援して...です

●地域住民の連携

自分の「ほ場」のことだけを考えたのでは被害はなくなります
その地域の問題として住民全員で取り組むことが必須です(農家・非農家も関係ありません)
そこで、地域の連携が深まるというメリットが生まれてきます